

<令和2年度・社会福祉法人やまなみ会まとめ>

(1) はじめに

社会福祉法人やまなみ会は、利用者とその家族の実態に適した支援の更なる向上を目指し、社会福祉施設としての機能を発揮できるよう強化を図った。しかし今年度は、世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症により、暮らしや生活スタイルは一変し、今もなお感染拡大の終息が見えない状況にある。また、主要都市を中心に緊急事態宣言も3度に亘って発令され、生活や仕事にも大きなダメージを与えることとなり、これまで当たり前前にしていたことにも制限がかかり、ウィズコロナ時代の「新たな生活様式」への対応が今もなお求められている。

社会福祉法人やまなみ会としては、感染拡大の懸念から今年度、日々の授産活動や展覧会をはじめとした多くの対外事業はもちろん、外部からの見学や地域交流事業、実習や研修等の中止または延期せざるを得ない状況となった。年度途中緊急事態宣言の解除等を受け一部を再開し、定員の縮小、徹底した感染予防対策のうえ、利用者に安心して通所いただけるような環境の確保に努めた。その結果、近隣の福祉サービス事業所ではクラスター等多発する中、社会福祉法人やまなみ会においては新型コロナウイルスのみならずインフルエンザをはじめとした感染者を出すこともなかった。

日々の運営においては、例年同様、万全の職員体制を維持することで、施設利用者の生命と健康はもちろん、一人ひとりの意思及び人格の尊重、安心できる時間と空間、そして幸せを保障し「明るく・温かく・楽しく」生活ができるよう利用者のニーズや立場に立った適正な支援とアートセンター開設をはじめとした環境整備を行った。

設立当初からの理念をもとに、希望者があれば障害の程度に関わらず適時受け入れを行い、それぞれに応じた労働を通して社会へ参加し、本人及びその家族が地域の中で心身ともにゆたかな暮らしを送れる事を保障した。

現在（令和3年5月）「やまなみ工房」には88名、「ゆとりあ」には45名、「フルハウス」には4名の利用者が在籍している。

令和3年度においても引き続き社会福祉法人制度に基づき健全なる経営のもと、幅広く地域やボランティア団体、行政をはじめとした関係機関及び個人と連携を強化し、障害のある人に対する差別がなく、多様な価値観を認め合い、相互に人格と個性を尊重しあう社会の大切さを地域社会全体で共有するとともに、滋賀に根付く福祉の思想の流れを受け継ぎ、共感の輪を広げながら、一体となって「一人の不幸も見逃さない」共生社会づくりを目指すと同時に障害者が地域の中で心身ともに豊かにくらせるよう充実を図りたい。

(2) 事業報告

① 理事会

令和2年度、理事は引き続き6名により構成され、理事会は計3回（昨年4回）開催した。

今年度においても日々健全に法人経営が図れるよう審議を重ねた事は勿論、社会福祉法人制度に基づき適切な運営を行った。今年度は事業及び決算報告、補正予算並びに次年度の事業計画及び予算、新規事業としてグループホームの必要性に関する協議を中心に、「やまなみ工房」「ゆとりあ」「フルハウス」及び各事業が適正に運営され利用者はもちろん地域の願いに沿って充実した実践が行えるよう協議を行った。

- ・ 第1回理事会・令和2年6月8日 やまなみ工房
 - 令和元年度社会福祉法人やまなみ会事業報告
 - 令和元年度社会福祉法人やまなみ会決算報告
 - 監事監査報告
 - 定時評議員会の召集の決議について
 - アートセンターやまなみ完成報告

- ・ 第2回理事会・令和2年10月19日 やまなみ工房
 - 令和2年度社会福祉法人やまなみ会補正予算（案）
 - 建設会計通帳等解約について
 - 定款変更報告

- ・ 第3回理事会・令和3年3月25日 やまなみ工房
 - 令和2年度社会福祉法人やまなみ会第1次補正予算（案）について
 - 令和3年度社会福祉法人やまなみ会事業計画（案）について
 - 令和3年度社会福祉法人やまなみ会当初予算（案）について
 - 評議員選任解任委員任期の訂正について
 - 理事長及び業務執行理事の職務執行状況報告について
 - ゆとりあ菓子工房建設計画について
 - やまなみ会グループホーム建設計画について

② 評議員会

令和 2 年度、評議員会は引き続き 7 名で構成され、社会福祉法人やまなみ会の運営及び経営が健全且つ適正に運営され、よりよい福祉サービスに向かうよう重要事項の議決機関としての役割を果たした。今年度は定時評議員会を 1 回（昨年 1 回）開催した。

・ 令和 2 年度定時評議員会・令和 2 年 6 月 23 日 やまなみ工房

令和元年度社会福祉法人やまなみ会決算報告

監事監査報告

定款変更について

令和元年度社会福祉法人やまなみ会事業報告

アートセンター完成報告

③ 法人財政

やまなみ工房においては、年度途中、コロナウイルスの影響で出勤率が一時低下したが、特別補助金及び利用者の 3 名増に伴い結果的に前年度と比較すると支援費収入が約 4,000,000 円増収となり事業活動資金収支差額も 9,172,705 円（昨年 7,747,530 円）と安定化が図れている。一方支出の面においては軒並み対外的な事業が中止となり出張経費が例年に比べ少ないにもかかわらず、職員処遇の改善、またアートセンター建設に伴う建設資金の返済、その他送迎車両の整備等行ったことで前年度と比較し大幅な増減はない。今後も長期にわたり独立行政法人福祉医療機構への返済等があるため、日々の運営においては引き続き事業活動資金収支差額の残高を計画的に残せるよう努力する。

ゆとりあにおいては、近年利用者の契約者数に大幅な増となり、一日平均 20 人を超える利用率があり福祉的収入においては昨年より約 2,000,000 円の増収となっている。しかし職員体制の強化による人件費支出が増加傾向にあり全体支出の 73.6%と多くを占め、最終的に事業活動資金収支差額は 2,782,123 円（昨年 2,373,422 円、一昨年 7,297,663 円）となった。今後利用者の出勤率を月平均 23 名～25 名に向上するよう計画的に運営を行う。

共同生活援助（介護サービス包括型）「フルハウス」においては今年度、利用者が 4 名になり定員を満たすことで経営面においては安定が図れている。また一部世話人が高齢のため体力的に出勤日数を減らさなければならない等体制上適時個々の事情に応じ変更を余儀なくしたが新たに世話人を雇用したことで体制に影響はなく、利用者の生活保障の場として健康に留意し適切な運営を行えた。

相談支援事業所「やまなみ」においては現在 23 名と契約し、相談支援責任者を配置し適切に機能している。経営面での不安はなく、また相談支援員の業務においても兼務で行

っているが円滑に対応を行い各事業に対し支障はない。

各事業所の運営においては今後も利用者の安全と充実したサービスを第一に、職員の処遇においても安心して職務が遂行できるよう向上と安定を目指し適切な経営を行わなければならない。

本部会計事業においては、後援会事業「募金ビン設置運動」（現在圏域 99 ヶ所設置・令和 2 年度 167,195 円(元年度 210,500 円、30 年度 188,066 円となり累計 2,941,643 円)となっている。募金ビン活動で得た収益は毎年年度末に後援会より寄付を受け施設整備等に充てている。また 7 年目を迎える YaYaYa やまなみサポーターズクラブには現在 208 人（令和元年 215 人、30 年度 279 人、29 年度 293 人、28 年度 310 人、27 年度 333 人）が加入し昨年より更に減少傾向となっているため今後も会員増を目指したい。いずれも後援会よりいただく寄付金は法人運営に対して安定した支援となっている。

本部会計については今後も理事会運営はもちろん主たる活用法を特に施設整備、及び地域交流事業を強化するため、また地域住民との相互交流の運営補助として適切な使途を検討していきたい。

④ 権利擁護事業

社会福祉法人やまなみ会においては利用者の権利の尊厳を保持するために、「苦情対策委員会」「第三者委員会」を 3 名の委員で構成している。今年度は両事業所の副施設長が委員に対し活動報告や年間を通して議論したヒヤリハットを中心に報告会(令和 3 年 3 月 26 日)を行った。また、障害者差別解消法、障害者虐待防止法に基づき、引き続き障害者の安心安全に強化を図り、今年度もケース検討会議の開催並びに市主催の研修会に全職員の派遣を積極的に行った。

第三者委員会及び苦情の申し立て方法や概要については例年通り 4 月 1 日付けで全家庭に委員の連絡先を含め配布し、また施設内にも掲示するなど常に相談をしやすいよう配慮している。また、引き続き社会福祉法人やまなみ会・障害者虐待防止マニュアルの改定を必要に応じて行い、更なる防止に向けた強化を図る。今年度も施設事故・虐待予防対策委員会の設立と「ヒヤリハット」の報告を全職員に月一回以上の提出と月一回の定例会開催の義務付けを行っている。(令和 2 年度ヒヤリハット数 やまなみ工房 142 件、ゆとりあ 22 件)

令和 2 年度においても、苦情対策委員会に申し立てを行う問題は発生しなかったが、今後も利用者にとって、よりよい施設運営と支援の向上を目指し、些細なことでも信頼と安心をもって相談できるよう、利用者及び家族には引き続き関係性を深めると同時に周知徹底する。

法人内における事故等については両施設合わせて 0 件。今後も安全管理責任者は安全管理責任者講習を受講の上法人内において共有し施設内外において事故等発生しないよう徹底していく。第三者委員においては引き続き年一回を原則に両施設の見学及び報告説明会を開

催する。

- ・苦情解決責任者： 山下 完和 社会福祉法人やまなみ会 統括責任者
- ・苦情受付担当者： 雲林院 知恵 社会福祉法人やまなみ会 法人事務局長
- ・第三者委員： 加藤 和孝 杉田 利正 寺井 和代子

⑤ 福祉サービス事業

やまなみ工房では次年度、新たに3名の希望者を受け入れる。前年度は89名であったがご家庭の事情により生活の拠点を入所施設に移行するなど4名の退所者があった。いずれにおいても本人、ご家族のニーズとしては継続してやまなみ工房の利用を希望していたが保護者の高齢化からなる不安や、障害の重度化により家庭での生活が困難な事例が多かった。やまなみ工房としては今後も利用する障害者の願いを受け止め、それぞれのニーズに応じ適切な支援を可能にするため、環境整備や備品購入等様々な対応を図りたい。次年度においても利用希望があった場合、制度上に基づき圏域に関わらずそれぞれのニーズを受け止め状況に応じ受け入れを行う。そのためには定員の拡大、並びに生活の受け皿となる法人独自の新たな拠点が必要である。

ゆとりあは、20名の定員に対し今年度40名、次年度は45名の契約者が在籍することとなる。職員体制を強化したことで更にきめ細かい対応や個々のニーズに応じた作業内容の提供が可能となり利用率も常時100%を超え向上傾向にある。引き続きゆとりあの実践をベースに実習や新規利用者の受け止めを積極的に行い、今後も精神障害者を主たる利用者とし、個々の特性やニーズに応じて、医療や関係機関と連携を密にしながら包括的に支援をし、本人や地域課題に沿ったサービス内容を提供したい。またゆとりあとして地域への情報公開を積極的に行い精神障害者や施設実態への理解を深めたい。

また今年度はアートセンターを活用した共同での活動やカフェやイベントでの授産活動の収益増、更には利用者による併用利用を活発に行った。、今後もやまなみ会の2事業所間で更に連携を深め、協力体制強化をもとに利用者一人一人のニーズに応えたい。

フルハウスにおいては現在4名（定員5名）の利用者が在籍している。コロナウイルス感染予防の観点から毎月のお楽しみ会や年一回の宿泊旅行については全て中止したため余暇支援については今後内容を再検討したい。その他避難訓練は2回行った。また、月一回利用者へのモニタリングを行い、その都度利用者のニーズを明確にし、適切な支援を行っている。緊急一時受け入れに対応するため、利用者人数は当面4名で運営を行う。

相談支援事業所「やまなみ」においては管理者1名、主任1名、相談員8名（昨年6名）で運営している（ゆとりあ職員2名、やまなみ工房職員7名、管理者は施設長が兼務）。現在両施設合わせ23名（昨年22名）の利用があるがモニタリングの作成等円滑に

対応できている。法人内の事業所の職員体制においては、その都度最適な体制を図り日中活動のみならず家庭の状況にあわせ通院同行や緊急受け入れ、家族を中心とした包括支援も柔軟に行い個々のニーズに応じ支援の低下を招くことなく計画的に行うことが出来た。

引き続き職員の処遇改善においては、働き方改革を推進するため適時対応を行う。

今年度の有休取得率においては全職員が年 5 日以上取得し、また平日は非常勤は 17 時半、常勤は 19 時までに退勤を心掛け、別途週一回 NO 残業 DAY を設け、休日出勤（出張）についても偏りや超過のないよう十分注意を払った。

⑥ 地域交流事業

これまでやまなみ工房を中心に、地域のみならず国内外において積極的に地域交流を行ってきた。しかし今年度はコロナウイルスの影響を受け、見学の受け入れはもちろん、対外的な行事や出張を取り止めるなど一年を通し例年通りの活動を自粛し、利用者の生命の安全を最優先し感染予防を徹底した。また本来であればアートセンター開設を機に様々な事業を行い、地域住民や子供達、ボランティアや実習生（学生・利用体験）をはじめ行政や教育関係者、全国の福祉関係者をより積極的に受け入れる予定をしていたが全て中止となった。地域交流事業は当法人にとって最も貴重な体験となり特に昨年よりニーズが多かった滋賀県全域の民生委員や他県を含めた新規小中学校との交流も残念ながら実現には至らず、ネットワークや理解の拡大にも影響を及ぼすこととなった。

今年度においては7月からアートセンターやカフェもオープンし一時見学の受け入れを開始したが、緊急事態宣言等の発令や近隣の福祉事業所等で発生したクラスター等の影響もあり常時見学等の受け入れを中止した。その結果、昨年はギャラリーの見学やイベント、学習会開催による来場を合わせると 3,000 人を超える来場者があったが今年度は約 250 人程度に減少した。一般の見学者には見学科として昨年の一人 500 円から値上げをし、一人 1,000 円を徴収し利用者の工賃として還元することが出来た。（令和 2 年度 250 人・260,774 円、令和元年 1,980 人・728,350 円、30 年 1,031 人・515,500 円 *小・中学生団体無料）

ただ、甲賀市が内閣官房オリパラ事務局の実施するモデル事業「オリパラ基本方針推進調査」に共生社会ホストタウンとして追加登録されたことを受け、当法人では甲賀市のホストタウンであるシンガポール共和国のパラリンピアン選手団の受入を機に、多様な価値観や生き方が受け入れられ、全ての人々が心身ともに健康で豊かな人生を送り、いつもの暮らしにしあわせを感じるまちの実現に向け様々な事業に取り組んだ。残念ながら一部の事業は中止になったが、地元あいこうか市民ホールで開催した展覧会には期間を通し 900 人の来場者があり、また甲賀市内全ての小学校、中学校での作品展示、市内 50 カ

所の企業や店舗でのレンタルアート事業を行い地域住民との貴重な交流の場となり、また甲賀市からの受託事業として授産活動の一環にもなった。

YaYaYa やまなみサポーターズクラブについては後援会の基本理念を基に、今後も地域に根ざした活動を展開し、やまなみ会や障害者福祉の理解へと繋がるよう運動を発展させ法人全体で更なる会員拡大を目指すと同時に魅力ある企画を計画したい。

今年度は地域を中心に社会への情報開示を積極的に行なった。特にこれまで機会の少なかったゆとりあの情報をよりよく伝え、販路拡大につながるなどいい効果に繋がっている。また、決算報告や法人情報等はやまなみ工房 WEBSITE で閲覧できるようにしている。その他、やまなみ会通信や各種行事報告を自治会の回覧板や全国各地 4,000 か所（団体・個人）に周知した他、書籍制作や映像作品制作、SNS、TV 等のマスメディアを通じた情報発信等、成果を基に地域とやまなみ会がより身近に、また密接に繋がり様々な協力を得ている。

引き続きコロナウイルスの状況を踏まえ、今後も行政や各種団体との連携や行事への積極的な参加。ゆとりあの菓子販売や、やまなみ工房の作品展、喫茶営業、古紙回収事業、メンテナンス事業を始めとした活動を積極的に行きたい。やまなみ工房の創作物は国内外を中心に幅広く展開し、様々なマスメディアに取り上げられるなど高い評価を得ている。今後も専門性を高め適切なマネジメントをもって更なる発展を目指したい。

⑦ 今後の課題

やまなみ会を利用する契約者数は現在 133 人（昨年 124 人）となった。今後においても現在の利用者を中心に、障害者と家族一人ひとりの暮らしと健康に重点をおき、法人として適切な経営を行い、個々はもちろん地域社会のニーズに沿った支援の強化と環境整備に努めたい。

また利用者一人ひとりの願いと人権が尊重されることを基本としながら、工賃の向上や就労に向けた具体的な計画による活動内容及び支援の向上、生活の基盤となる福祉サービスの整備、だれもが健康で生きがいをもち、それぞれの価値観や、存在意義が大切にされ安心していつまでも地域で暮らしつづけることができる支援、家族の不安と負担の軽減に努め福祉制度やサービスの利用や効果を高めていく。

勤務する職員においても福祉従事者としての専門性の向上に努め、提供するサービスの質の評価を常に行い改善を図る。また職員が健全な施設運営の基、安定した労働条件を整え保障する。

今後も利用者一人ひとりとその家族、関係者が安心して利用できるよう、理事会、評議員会、職員、家族、支援者とともに力を合わせ意思の疎通を図り、地域における社会資源として、障害者福祉推進活動の拠点となり充実・発展を目指したい。

<令和2年度・やまなみ工房 まとめ>

1) やまなみ工房の一年

やまなみ工房は現在（令和3年3月31日）障害者多機能型事業所定員60名（就労継続支援B型・定員20名、生活介護・定員40名）として88名の利用者が在籍し、また令和3年度においては新たに3名の退所者と新しく3名の利用希望者の受け入れが決定している。

利用者88名の事業別内訳においては現在就労B型に32名、生活介護に56名が在籍し3つの活動班に分かれ、それぞれの特性やニーズに分かれ安定した活動を行っている。

今年度においても、常に全体の連絡・調整を円滑に行い、利用者とその家族の実態に適した包括的な支援の向上と利用者の健康と安全を第一に、一人ひとりの意思及び人格を尊重し、安心できる時間と空間の中で「明るく・温かく・楽しく」生活ができるよう創意工夫を凝らし、心身ともに豊かな人間性溢れる支援、個々の立場に立った適切な支援と就労保障を行った。

また、新しくアートセンターとカフェを開設したことで利用者にとってはより快適で個々のニーズに応じた環境設定が可能となり、新たな表現活動（パフォーマンス等）や幅広く余暇活動の取り組みも可能となった。ただコロナウイルス感染予防のため、地域住民はもちろんのこと全国各地から問い合わせをいただいた見学者の受け入れについては利用者の健康を優先し自粛した。また国内はもちろん海外での多くの展覧会についても中止となり活動や収入においては多大な影響を受けた。

テレビをはじめとした新聞、ラジオ、雑誌等においては多数取り上げられる等、福祉関係者のみならず国内外からの評価は高く、新たなネットワークの広がりから、企業とのコラボやオリパラ事業など芸術を軸とした新たな仕事の開拓や事業へと繋がった。

地域においては多様で幅広い世代間との貴重なコミュニティーの場となるよう今後も様々な団体や個人との交流を通じて障害者への理解を深めたい。

2) 施設財政

令和2年度においては利用者数の増加に伴い、事業活動収入合計が167,643,675円（昨年163,850,380円）となり、昨年度と比較すると3,793,295円（昨年7,653,087円）の増収となった。福祉的収入も一定しているが、今年度より始まった福祉医療機構へのアートセンター建設にかかる返済等があり対外的な事業が少ないにも関わらず支出についても前年度に比べ全体的に増となった。

今年度においては大規模な施設内整備等を行わず、また展覧会やイベント開催など多くは中止となった。昨年と比較し事務費については19,647,470円（昨年22,790,538円）と減

になっている。次年度以降も自粛傾向にあり見通しが見えない状況ではあるが、今後、新施設を軸にしたカフェ運営やイベント開催等新たな事業と合わせ、これまで継続して開催している PR-y との共同事業等様々な企画は引き続き積極的に行い、今後も同様の支出を計画的に必要な経費として考えたい。

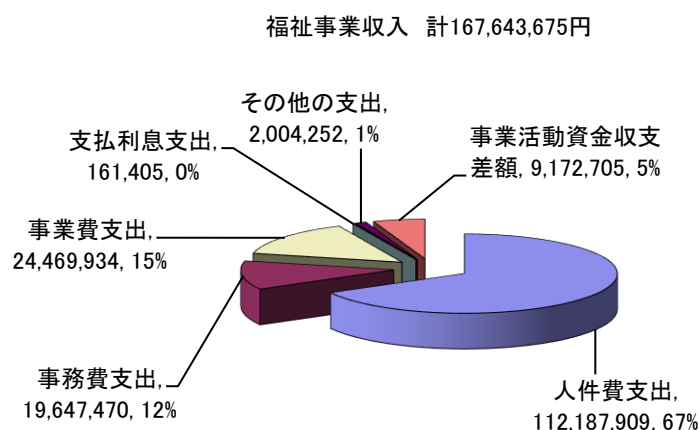
人件費においては定期昇給と増員により全体支出は増え、全体収益に対する比率は 67% (昨年 68%) となった。次年度以降においても、職員には働き方改革の推進とともに安定した処遇を保証し同時に経営面においては目標 65% に収めたい。

先に述べたように福祉事業収入においては今年度 167,643,675 円となり年々増収となっているが、利用者増に伴う職員の加配や様々な事業を行うことで支出も比例するように増えている。加算や支援費単価等の度重なる制度改革の中、引き続き一部の支援費が減額状況ではあるが、今年度はコロナ対策の特別補助金などがあり、また、当施設においてはクラスターやその他の感染症等による影響もなく、結果的に例年以上に利用者の通所率が上がり、そのことが収入増に繋がり施設経営は安定している。

図 1) 福祉事業活動による収支 (令和元年度)

科目	29 年度	30 年度	令和元年度	令和 2 年度
人件費支出	95,354,948 円	105,640,813 円	111,015,789 円	112,187,909 円
事務費支出	34,160,837 円	18,569,496 円	22,790,538 円	19,647,470 円
事業費支出	18,267,858 円	18,575,227 円	20,121,112 円	24,469,934 円
支払利息支出	5,251 円	185 円	145,753 円	161,405 円
その他の支出	1,672,026 円	1,808,792 円	2,030,735 円	2,004,252 円
事業活動収入計	150,666,253 円	156,197,293 円	163,850,380 円	167,643,675 円
事業活動資金収支差額	1,205,333 円	11,602,780 円	7,747,530 円	9,172,705 円

図 1) 福祉的事業支出の内訳と比率



3) 利用者状況

令和3年3月31日現在、利用契約者数は88名（昨年85名）となり就労B型・定員20名に32名、生活介護・定員40名に56名が在籍し、それぞれにニーズに応じた支援を行っている。コロナウイルスの影響で県外の利用者や感染を恐れ一部の利用者が出勤を控える等例年にない状況が続いたが概ね個々の通所においても安定し、1年間の開所日数は247日（昨年246日）となり年間を通した定員に対する平均利用者数は、生活介護117.8%（昨年117.5%）、就労B型120%（昨年118%）となっている。在籍者も増え、また過去5年を見ても年々全体的に利用率の%は向上してはいる。今年度においては個々の体調不良や精神不安定による長期の欠勤者も少なく、またコロナウイルスの感染予防の為に欠勤者に対しても一部補助金が適用され大幅な支援費収入減には至っていない。一年を通し一日あたり生活介護に47人（昨年47人）、就労継続支援B型に24人（昨年23.5人）、合計71.1（昨年70.5人）が一日平均通所している事となり5年前からは平均約10名増となっている。

やまなみ工房の利用者の障害程度区分においては、区分1が3名、区分2が10名、区分3が13名、区分4が22名、区分5が21名、区分6が12名、区分なし7名の計88名となり平均程度区分は4となり年々重度判定の利用者が増となり強度行動障害等支援度も高くマンツーマン対応が必要になるなど支援度が上がっている。

一方年代比率は10代6名、20代34名、30代21名、40代15名、50代8名、60代3名（2名）、70歳以上1名（1名）となり平均年齢は34歳である。

男女比率は男性52名、女性36名、利用者は比較的若年齢で概ね健康的である。しかし今年度、保護者の高齢化、また障害の重度化に伴いに生活の拠点を入所施設に移行を余儀なくされた利用者が3人、また緊急的に移行を希望する利用者が5名、うち1名は他法人のグループホームに入所するという状況になった。今後も家庭での生活が出来ないなど心配される利用者が推定で全体の20%程度いるため、利用者のみならず家族を対象にした包括的な対応はもちろん生活の拠点を確保しなければ継続した通所が困難になる。

地域別で見ると甲賀市からは59名が通所し（甲南24名、甲賀13名、水口16名、土山4名、信楽2名）、湖南市から14名、草津市から3名、大津市から3名、栗東市から1名、三重県より5名、その他、他府県より3名となっている。

個々の支援の内容についてはモニタリングによる支援計画を作成し年2回の面談を全ての利用者、家族と行いニーズの確認を行った。その他日々の連絡帳や必要に応じた調整会議等を行った。

またコロナウイルスに関する情報提供や施設方針を明確に伝え常時検温や家族を含めた健康状態について徹底して情報収集と感染予防を行った。その結果今年度はインフルエンザをはじめ風邪等による欠勤は激減した。

今後も昨年同様、更なる支援サービスが必要に応じて受けられるよう慎重に対応が必要である。何より一人ひとりが生きがいをもって健康且つ安全で安心できる豊かな日常が送

れるよう徹底し、家庭との連携や疎通をより密接に行うこととする。また、利用者や家族の権利を正しく保障するため苦情処理委員会の存在や利用に係る要綱を全ての利用者に広く周知を進め、どんな些細な事においても意見が出しやすいよう配慮し連携を深めたい。

図 2) 生活介護 出勤率 年間平均 117.8% 1日平均 47.1人

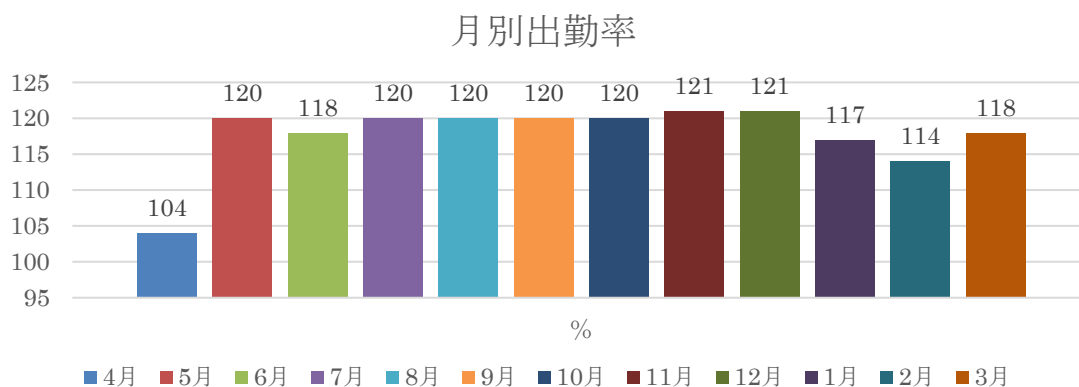


図 3) 就労継続 B 型 出勤率 年間平均 120% 1日平均 24人

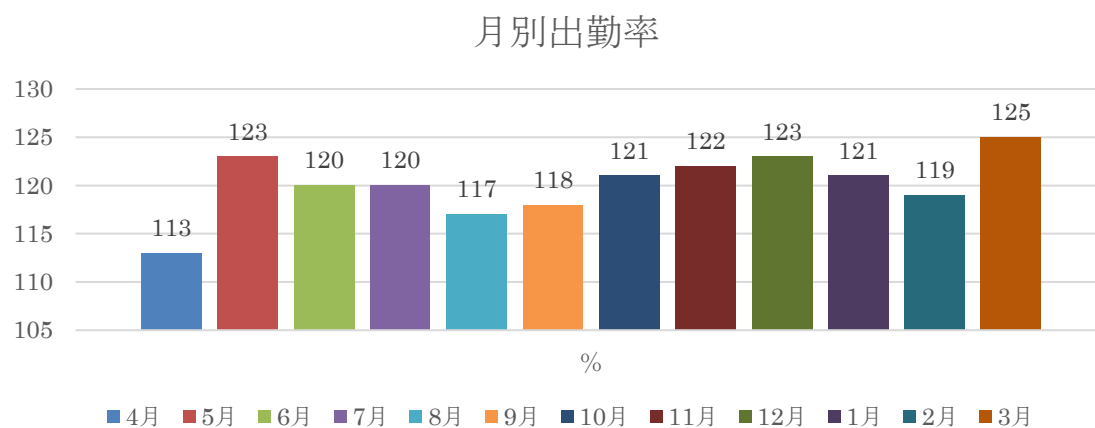


図 4) 年代別・利用者比率 (平均年齢 34 歳)

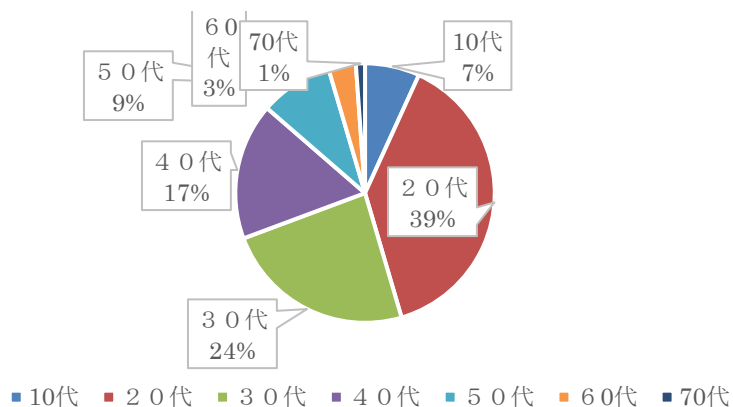


图 5) 男女別・利用者比率

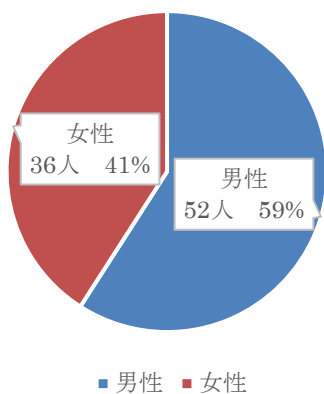


图 6) 地域別利用者

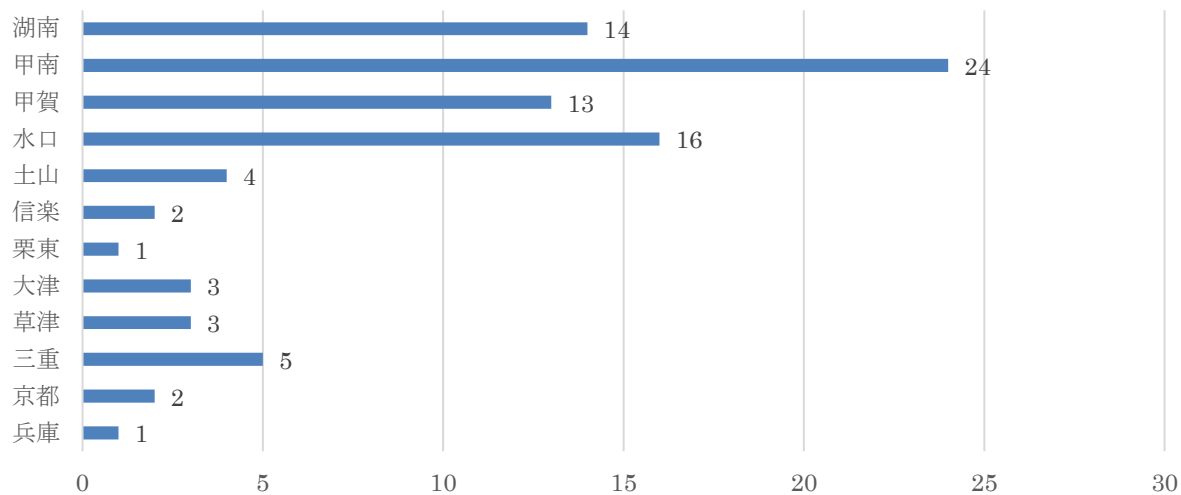
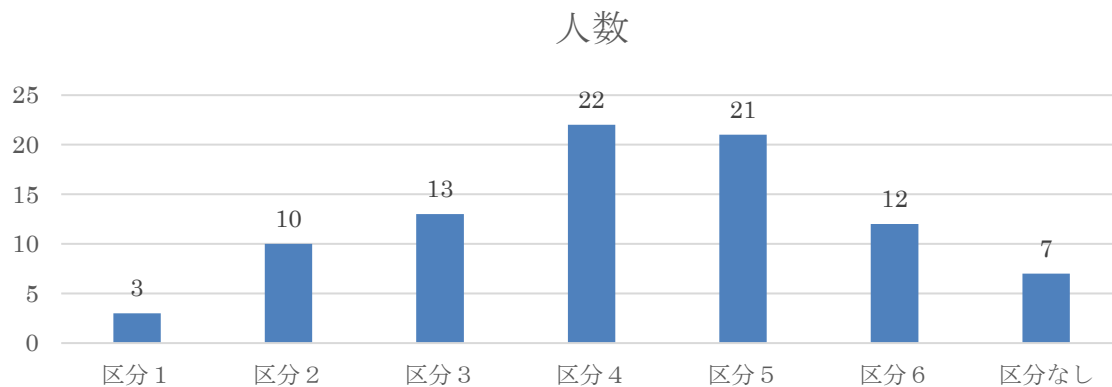


图 7) 利用者障害者支援区分 平均区分 4



4) 授産活動

昨年度、各班の積極的な活動により大幅な収益増につながった。また過去数年間の全体収益を見ても昨年 22,730,601 円、30 年 17,178,164 円、29 年 18,724,046 円、28 年 10,401,336 円、27 年 8,739,457 円、26 年 9,813,567 円、25 年 8,000,704 円となっている。

一方今年度においては年度当初よりアートセンター開設に伴う見学者の増員、カフェオープンによる収益増、オリパラ開催年に伴う国内外における様々な事業や軌道に乗った LIVE 事業等、利用者の工賃倍増に向け大幅な収益増を見込んでいた。しかしコロナウイルスの影響を受け、その多くは当初の目標設定を下回る事となった。特に見学者の受け入れは激減し、そのことによりグッズ販売等にも影響を及ぼした。また国内外で開催予定であった展覧会等の中止、LIVE 事業においては一度も開催が出来ず昨年 100 万を超える収益は 0 円となった。また近年の不況の煽りを受け、定着していた古紙回収事業についても単価が下がるなど活動実態と伴わない状況が起こっている。

カフェについては見学者以外の一般利用が多く、3,099,931 円の売り上げがあった。次年度以降一年を通し安定した営業が出来ればまだまだ収益は伸びる見込みがある。

また今年度は甲賀市からの受託事業として企画したオリパラ事業による収益があり他事業の減収を補填することとなった。ただし単年度事業の為、コロナウイルスの影響が今後も続くようであれば一定収益を見込める新たな事業を検討しなければならない。

ただし当初の予定通りではなく非常に厳しい一年であったものの結果的には昨年の全体収入 22,730,601 円を 827,063 円上回り 23,557,664 円の収入があった。カフェ、オリパラ事業の大幅な収入増と合わせて、来客受け入れや展覧会が中止になる中、オンラインでのグッズや作品販売等がある一定あり安定につながった。

今後、積極的な展覧会の開催、また新たなグッズ制作による販売促進やレンタルアートなどの新規事業、LIVE 事業やワークショップの開催等による地域交流事業や見学の受け入れについてもコロナウイルスの状況を見て再開し利用者の工賃向上につなげたい。

地域の中でも定着していた古紙回収については多い年で年間 70 万を超す収益を得ていたが、引取り単価が大幅に下落し年間同じ量を回収していても収益が 50%を下回るなど今後見直しが必要である。またウィズコロナに向け自動販売機事業の拡大など利用者の安全を確保するとともに効率的に安定した収益を得る方法についても検討を進めたい。

一方、年間 23,557,664 円の収入に対し支出の総額は 16,799,396 円となった。主な支出は利用者の工賃や原材料費等による諸経費である。このことにより今年度の当期繰越金額は 6,758,268 円となることから来年度利用者の賞与や工賃向上、並びに授産事業拡大に向けた授産機器整備等のため計画的用途を明確にしたい。

●令和元年授産収入一覧

項目	令和元年度収入	令和2年度収入	備考
作品販売、展覧会等	13,889,077 円	12,293,192 円	
古紙回収、キャップ回収	628,292 円	340,923 円	
メンテナンス	619,280 円	1,172,354 円	
自動販売機	688,051 円	696,994 円	
仏花・洗車	202,120 円	168,400 円	
カフェ	907,937 円	3,099,931 円	
見学料（4～11月）	728,350 円	260,774 円	
Tシャツ	1,629,000 円	1,354,602 円	
LIVE 事業	1,235,848 円	0 円	
ガチャガチャ	92,400 円	22,800 円	
グッズ/ショップ	1,489,486 円	1,231,309 円	
ATM 清掃/LINE スタンプ	192,354 円	17,815 円	
物資	379,500 円	415,570 円	
その他	48,906 円	2,483,000 円	オリパラ、上映料他
合計	22,730,601 円	23,557,664 円	

5) 利用者工賃

利用者の工賃においては事業別に策定したやまなみ工房給与規程に基づき支給した。現在の平均支給額は一人当たり 5,044 円（昨年 4,736 円、30 年 4,585 円、29 年 4,315 円、28 年 4,161 円）となり過去 5 年を経て一人当たりの月給が 1,000 円昇給したが十分ではなく今後最低でも全国平均（B 型 13,000 円程度）は月額保証したい。尚、平均額については併用利用や曜日毎利用の方が増え日割り支給の方がいる為である。

利用者には夏冬賞与（夏 5,000 円、冬 10,000 円）と合わせ今年度も 3 月に年度末手当として一人 12,000 円を支給した。

作家別著作権料については毎年契約更新をしている著作権規定に基づき支給した。内訳については現在他団体から個人に支払われる作品売り上げや出展謝金及び作品の使用料収入の 70%を月給と別途本人支給し、工賃の支給額最高は 1,589,600 円（昨年度 2,092,655 円、30 年 4,176,995 円、29 年 666,402 円、28 年 238,664 円）となっている。また今年度は工賃年収合計（著作権込み）、5 万円以上が 26 人（昨年 39 人）、10 万円以上の利用者は 38 人（昨年 18 人）、20 万円以上が 12 人（昨年 9 人）、50 万円以上が 1 人（昨年 6 人）、100 万円以上が 1 人（昨年 1 人）、200 万円以上は 0 人（昨年 1 人）となった。

来年度においても利用者の日常のペースに配慮しながら、状況に応じた様々な活動を展開する他、新たな事業を検討し更に収益を上げ、利用者の工賃倍増を目標に取り組みたい。

6) 施設の充実について

今年度はコロナ感染予防対策を講じるための備品の購入を中心に、利用者増に伴う送迎バスを昨年に引き続き新たに1台購入した。その他、利用者用のタブレットの購入、アートセンター開設に伴い、各班の作業室についても必要備品の充実を図り、個々のニーズに更に対応できるよう改善した。

引き続き室内外については徹底した清掃作業を行い不要なものの撤去、また安全と衛生面において常に環境整備に努め、利用者が安心安全の中、快適に活動が出来るよう充実に努めたい。

7) 社会参加・地域交流事業

昨年はギャラリーやLIVE事業を中心に地域をはじめ国内外からの見学者は3,000人を超えた。しかし今年度においてはコロナウイルスの影響を受け250人程度まで激減し、LIVE事業も予定していた公演が全て中止となり1回も開催が出来なかった。

これまでギャラリー見学やカフェ利用と共に施設内を見学し、利用者と交流を持つなどやまなみ工房や障害者福祉に対する理解を大きく深めることへと繋がっていたが今年度については利用者への感染予防を徹底したため全て自粛した。その他やまなみ会通信(年4回、郵送4,000部(関係団体・個人)、甲南町自治会回覧版)の発行は昨年よりカラー印刷へと充実させ好評を得ている。その他京都新聞大賞の受賞をはじめ新聞、雑誌、テレビの取材をはじめとした掲載や様々な団体や行政の機関紙等で利用者の活動が多く取り上げられたことは地域や関係者への理解へと繋がっている。

引き続きメンテナンス事業、古紙回収事業やペットボトルリサイクル事業等利用者による授産活動も地域に定着し、社会の中で地域と交流を深める大切な役割を担っている。

昨年まで活発な開催がなされていた教育関係者や行政をはじめとした各種団体、全国の福祉関係者によるセミナーや映画上映会の開催等においては残念ながら多くが中止となった。国内外において開催される様々な展覧会やイベントはやまなみ工房の実践が発表される貴重な機会となる他、作品やグッズ販売をはじめ注目も高く今後の社会情勢に応じ積極的に取り組みたい。甲賀市が内閣官房オリパラ事務局の実施するモデル事業「オリパラ基本方針推進調査」に共生社会ホストタウンとして追加登録されたことを受け、甲賀市のホストタウンであるシンガポール共和国のパラリンピアン選手団の受入を機に、やまなみ工房として様々な事業に取り組んだ。残念ながら一部の事業は中止になったが、地元あいこうか市民ホールで開催した展覧会には期間を通し900人の来場者があり、また甲賀市内全ての小学校、中学校での作品展示、市内50カ所の企業や店舗でのレンタルアート事業を行い地域住民との貴重な交流の場となったことは大きな成果であった。

図 11) 令和元年展覧会開催報告

展覧会名	開催場所	期日	出展作家
満点の星に創造の原石たちも輝くーカワルガワルヒロガルセカイー	武蔵野市立吉祥寺美術館 東京都渋谷公園通りギャラリー	2020.9.5-12.6	鶴飼結一朗、岡元俊雄、森田郷士
エースホテル京都	エースホテル京都	2020.6-11	田村拓也
ルイジトコトナリー 類似と異なり	はじまりの美術館	2020.7.11 - 10.11	吉川秀昭
面(おもて)と人形(ひとかた)は語る	もうひとつの美術館	2020.7.17-11.23	大路裕也、栗田淳一、田村拓也、森田郷士、吉田楓馬
Art Dealers Collecting Outsider Art Curated by Paul Laster	Andrew Edlin Gallery	2020.7.22-8.28	大家美咲
あるがままのアートー 人知れず表現し続ける者たち展	東京藝術大学大学美術館	2020.7.23-9.6	山際正己、井村ももか
oaf art brut global online	オンライン	2020.8	中川ももこ
かんじんなことは、目に見えない	にしびりかの美術館	2020.09.20-12.29	栗田淳一
パラダイムシフト	原田の森ギャラリー	2020.10.20-10.25	井上優、井村ももか、神山亜津美、清水千秋、竹中克佳、三井啓吾、吉田陸人
OUT SIDER ART FAIR Paris	オンライン	2020.10.21-11.21	井村ももか
伝統への現代デザインの応答 丹後ちりめん 300 周年にむけて	KYOTO Design Lab 東京ギャラリーー [アーツ千代田 3331]	2020.10.31-12.27	川邊紘子、北村悠、瀬古美鈴
第 33 回企画展 やまなみ工房展	J GALLERY&CAFE	2020.10.31-12.19	井上優、井村ももか、岩瀬俊一、大路裕也、大家美咲、岡元俊雄、竹中克佳、鎌江一美、河合由美子、田村拓也、宮下幸士、三井啓吾、吉川秀昭
現代アートの国際展 ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2020	オンライン 横浜市役所アトリウム	2020.11.18-11.24	鎌江一美
伝統への現代デザインの応答	堀川御池ギャラリー ギャラリーA (展示) ギャラリーC (セミナー)	2021.1.8-1.10	川邊紘子、瀬古美鈴、北村悠
シンガポール×甲賀市 アールブリュット作品合同展 Alamak! アラマ!	あいこうか市民ホール 展示室	2021.1.14 - 1.23	やまなみ工房 30 名
伝統への現代デザインの応答 - 丹後展 -	京都府織物・金属振興センター 2F	2021.2.10 - 2.12	川邊紘子、北村悠、瀬古美鈴
DISTORTION9	DISTORTION 9	2020.5-現在	中尾涼、大家美咲
アートって何なん?ー やまなみ工房からの返信ー	南砺市立福光美術館	2021.3.6 - 5.9	池ノ内孝文、井村ももか、井上優、井野友貴、岩瀬俊一、鶴飼裕之、鶴飼結一朗、榎本高士、大路裕也、大原菜穂子、岡元俊雄、加賀谷圭太、竹中克佳、鎌江一美、河合由美子、川邊紘子、栗田淳一、神山美智子、酒井美穂子、清水千秋、城谷明子、田中乃理子、田中睦美、田村拓也、中尾涼、中川ももこ、林口勲、富士川義晃、三井啓吾、宮下幸士、三好直也、森雅樹、山際正己、山本愛、吉川秀昭、吉田陸人
アールブリュットってなんだ!つくりたい、あらわしたいことのはなし	富山 小中学校巡回展	2021.2-	鎌江一美、吉川秀昭
とりどりのアート	オンライン上展示	2020.12-2021.3	山際正己
NAKANO 街中まるごと美術館	中野さんモール商店街	2021.1.23-2.23	鎌江一美、竹中克佳

	中野ブロードウェイ商店街 中野南口駅前商店街 レンガ坂商店会 中野マルイ		
かんでんコラボアート	堂島リバーフォーラム	2021. 2. 26-3. 3	林口勲
OUT SIDER ART FAIR Paris	オンライン	2021. 1. 28-2. 7	鶴飼結一朗、森田郷士、鎌江一美、吉川秀昭、中川ももこ
ふらっと美の間	八日市郵便局	2020. 4-10	岩瀬俊一
ふらっと美の間	龍谷大学 6 号館	2020. 4-10	岡元俊雄
ふらっと美の間	雄山壮	2020. 4-10	大原菜穂子
ふらっと美の間	塩野温泉	2020. 4-10	清水千秋
ふらっと美の間	紅鮎	2020. 4-10	川邊紘子
ふらっと美の間	滋賀県庁	2020. 10-2021. 3	三井啓吾
ふらっと美の間	イオンモール 草津	2020. 10-2021. 3	竹口和
ふらっと美の間	ホテル&リゾート長浜	2020. 10-2021. 3	岩瀬俊一
ふらっと美の間	平和堂今津	2020. 10-2021. 3	山際正己
ふらっと美の間	平和堂今津	2020. 10-2021. 3	宮下幸士
ふらっと美の間	龍谷大学 6 号館	2020. 10-2021. 3	鎌江一美

1、公募展

「第3回日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展」
入賞／吉田楓、田中の、三井、岩瀬、勝間
秋元雄史賞／池上
上田バロン賞／岡元
佳作／上土橋、内田、田中む、山根、森田、梅田

2、エイブルアート・カンパニー

現在3名(三井啓吾、川邊紘子、神山亜津美) 登録作家
川邊紘子 「トヨタラッピングデザイン使用」
「トヨタ会館配布用ポストカード使用」
「トヨタ名古屋ショールームリニューアル 店内装飾」
「2021年福缶 デザイン使用」
神山亜津美 「株式会社サンゲツ冊子使用」
「株式会社サンゲツ 壁紙使用」
「2021年卓上カレンダーデザイン使用」
「2021年福缶 デザイン使用」

3、＜その他特筆すべき事柄＞

- ・アメリカン・フォーク・アート・ミュージアム収蔵／鶴飼結
- ・「西陣 CONNECT」アメリカアースティン「サウス・バイ・サウスウェスト」展示／中尾
- ・「西陣 CONNECT」次回企画／宮下、大路
- ・リニューアルパンフレット表紙／鎌江、井村、岩瀬、宮下、吉川、田中の、瀧口、清水
- ・株式会社クリザス カレンダーデザイン使用／鶴飼裕
- ・DISTORTIO3 デザイン使用／中川も、堤、川中、吉川、山根
- ・洋服着用芸人／綾野剛、SixTOES、ヨシダナギ、SCANDAL、ジャニーズ WEST
- ・やまなみ T シャツデザイン使用／吉田陸、井上、田村、中尾、大家、西出、城谷、内田
- ・メモ帳デザイン使用／上土橋、城谷、池ノ内、川原、
- ・書籍「はじめてのオールブリュット」／竹中、岡元、鶴飼結
- ・NHK 厚生文化事業団メールマガジン「HEARTS&ARTS」紹介／森
- ・神戸大学院人間発達環境学研究科 冊子デザイン／大路
- ・2020 ブックススタート／西橋

- ・ART PRESS 雑誌掲載／中川も
- ・現代音楽ワークショップならびに成果発表 画像使用(糸賀一雄記念)／竹中
- ・TRUNK ホテル描きおろし／岡元
- ・日曜美術館「カラフル!多様性をめぐる冒険」放送
- ・日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS WEB 掲載／井上、川邊
- ・日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 新聞掲載／川邊、鶴飼結
- ・ベルギーブリュッセル BOZAR(芸術宮殿)「Danser Brut」／中川も
- ・英文論文誌 Psychiatry and Clinical Neurosciences (PCN) 誌表紙使用／鶴飼結
- ・朝日新聞 文芸時評掲載／鶴飼結
- ・YOCADANCE 描きおろし／中尾涼
- ・実教出版「社会福祉基礎」見本本作品掲載／岡元、吉川、井村、清水、田村、岩瀬
- ・一般社団法人日本音楽療法学会 講習会資料集表紙デザイン／田村
- ・NO ART NO LIFE NHKworld 放送／鎌江
- ・テレビ東京「たけしも知らないレベチなやつら (仮)」放送／鶴飼結
- ・福島中央テレビ／山際
- ・RYO MURAKAMICD ジャケットデザイン使用／加賀谷
- ・DISTORTIO9 デザイン使用／萱原、中尾、藤木、大家、北村、宮下、三井、川邊、井野大路、岡元、田村、岩瀬

8) 関係団体との連携

利用者が日常安心して適切なサービスが受けられるよう、個々のケースに応じて医療機関や相談センター、行政及び福祉施設とその都度連携を図り課題解決に繋げた。また、施設を提供し計画相談や関係機関による個別支援会議の対応等随時行った。今年度についてはご家族の死去や高齢化に伴い家庭での生活維持が困難な事例も多くあり、その都度関係者を含めた検討会の設定や対応が必要となった。またコロナウイルスの影響で他機関の受け入れに制限があり家庭や本人の負担においては要望に応えきれず軽減することが難しい場合も多くあった。

日中支援のみならず、利用者の家族を含めた包括的な支援や、生活の保障、権利擁護事業や後見人制度の活用についても必要に応じ行ってきた。現在後見人制度を利用している利用者は申請中を含め 5 名程度に留まっているが引き続き家庭の状況や必要性に応じ対応したい。

今年度においても虐待防止法を中心に学習し、日常の実践への意識を高めるようにした。施設内においても施設事故・虐待予防対策委員会を設立し、全職員にヒヤリハットの提出を月一回以上義務付け定例会議を行うようにし、各種マニュアルや報告書もより細部の事案に対応できるよう徹底している。(ヒヤリハット件数 142 件)

体制上圏域のサービス調整会議や各種団体の会議には参加が今年度も難しく、またコロナウイルスの影響で中止になるなど積極的な関わりは困難であったため他団体の会議等には出席できない事が多かった。

第三者委員会への申し立て等については今年度も事例がなかった。今後もそうしたこと

が起こらぬよう利用者と家族の尊厳を何より保障する。

尚、4月1日に全家庭に対し、苦情申し立て及び第三者委員会の概要説明、利用者の著作権及び著作人格権等の意思確認、緊急連絡先の確認、保険説明を例年同様行った。第三者委員には年に一度訪問いただきヒヤリハットの確認や状況説明及び見学案内を行った。

日頃より家庭に対して、各班ニュースやその都度行ってきた事業等の報告は書面をもって積極的に行っている。

やまなみ後援会では必要に応じて担当者と後援会役員が定例会議を開催した。しかし諸事業については中止のため例年のように参加等いただくことは自粛した。主な取り組みである Ya Ya Ya やまなみサポーターズクラブの積極的な周知勧誘をはじめ、募金ビン設置を拡大に向け地域発信するなど後援会の活動についても積極的に行うことが出来なかった。

やまなみ工房保護者会には、各種イベント参加や物資販売の協力を得た。今後もご家族の負担が少しでも軽減できるよう引き続き検討したい。

9) 福祉事業サービス

例年同様、通院同行や家庭訪問、電話相談他、朝夕の時間外支援、移動支援など家庭からの要望はもちろん必要性に応じて、その都度体制を整え家庭援助を行ってきた。また主に計画相談担当者を中心に調整会議の開催やニーズに応じた各種サービスが迅速に受けられるよう対応してきた。時間外受け入れについては緊急時を原則に可能な限り対応するが頻度も増幅し受け入れが困難な場合も起こり得る為、その都度慎重に対応したい。

今後も利用者や保護者と連絡を密にし、コロナウイルス等感染症対策をはじめ体調管理や生活基盤について細心の注意を払い、日常安定した生活が送れるよう配慮する。また家庭訪問や連絡帳を通じて細心の注意を払い、施設長、副施設長、主任を中心に個別に適切な対応を行う。

月 2 回の職員会議と合わせ、非常勤職員を含めた月一回の職員全体会議において個別ケースや緊急事例に関して対策を講じ全体で疎通を貼ってきた。

年間の支援計画については 5 月に個別の保護者面談を行い、活動方針の説明や各家庭のニーズ、個々のアセスメント、フェイスシートを作成し日常の支援に効率よく活かすことが出来た。モニタリングは年二回行い、支援計画等の見直しを行っている。

給食サービスについては、衛生面の徹底的な管理の向上を常に念頭に置き調理を行った。一人ひとりの障害や、健康状態に配慮する中、楽しく美味しく食すことを原則に食事を提供し、利用者にとっては健康を維持し日々の活力となり得る重要な役割を果たしている。衛生面においても徹底管理し今後も安心安全に留意し行う。

送迎サービスについては送迎対応マニュアルを策定し安全について徹底した強化を引き続き行った。また交通安全委員を配備し、より一層安全面を徹底している。今後も各家庭の

様々な事情に最大限対応していきたい。(今年度事故件数0件、その他交通違反件数はなし。)

月一回(3月・4月を除く)の土曜出勤については、今後も継続して行う。

健康診断(年二回)や集団歯科検診、インフルエンザ予防接種等、利用者が健康で過ごせるよう配慮を行った。無料での散髪サービスはボランティアの方の事情により今年度で終了、有料での散髪サービスは今後も継続し家庭支援へと繋げたい。

10) 今後の課題と事業展開

やまなみ工房は現在、甲賀市湖南市を中心とした甲賀圏域の障害者通所施設では最も利用者数は多く、定員60名に対し88名(令和3年3月31日現在)が在籍し、今後も利用希望者のニーズは高まる傾向にある。一方家庭での生活が困難になり今年度は入所施設への移行が3名あった。しかし令和3年4月には新たに3名(甲賀市3名)の希望があり、次年度についても総数88名、就労継続支援B型32名、生活介護56名となる。

今後も甲賀圏域に関わらず広範囲より入所希望の要望は続くと予想される。特に来春は圏域の三雲養護学校だけでも6名の希望者が既に入所を希望している。今後定員の拡大等も視野に入れながら現在利用されている利用者への支援の質を低下させることのないよう体制強化を行いながら出来る限り地域課題とニーズに応えたい。ただし定員に対し利用契約者数が現段階においても超過しているため、やまなみ工房の定員拡大については年度途中であっても万が一希望者が1人あった場合は事業変更を適時行う必要がある。尚、第二施設の開設については職員体制の不足を招くため現段階では難しく、市より譲り受けを予定している元シルバー人材センター作業室の使用も検討したい。

環境整備においてはアートセンター増築に伴い、一人当たりの有効面積や機能が大幅に改善された。引き続きその機能を最大限生かし利用者の工賃向上に向けた就労保障を充実させる。

今後も利用者一人ひとりの意思及び人格を尊重し、安心できる時間と空間、そして幸せを保障し、明るく・温かく・楽しく快適に生活ができるように創意工夫を凝らしながら、豊かな人間性溢れる支援を行えるよう物的にも人的にも柔軟に対応し更なる強化に努めたい。

またやまなみ工房の取り組みを引き続き様々な媒体を使い幅広く周知し障害者に対する支援や理解が深まるよう一層努力したい。

今後も理念に忠実に、どんなに障害が重くても、労働を通じて社会に参加し、生きがいと誇りをもって心身ともにゆたかな暮らしを送れるよう、一人ひとりの利用者やその家族のニーズに対し適切な支援を行い安心して日常生活を送れる事を目指し日々の運営を行う。

〈令和 2 年度・ゆとりあ まとめ〉

はじめに

令和 2 年度、ゆとりあには定員 20 名に対し 45 名（昨年度 39 名、一昨年度 37 名）の契約者が在籍し、月平均利用率は一年のうち 5 月、6 月、7 月を除き一日平均 20 名以上の通所となっている。特に 5 月から 7 月はコロナウイルスの影響を受け、所属のグループホーム等より外出自粛や利用者自身の判断で通所を控える状況が続き一日当たりの出勤率が 19 人平均に下がった。ただ、8 月以降は常時 20 名を超え、特に 11 月以降 3 月までは月平均においても 24 名から 25 名と高い出勤率となっている。こうした状況は利用者個々のニーズにきめ細かく適切な支援を行い、活動内容の充実及び、体制強化や環境整備が利用率の向上並びに利用者増に繋がっている。ただ、今年度は昨年より重点的に充実を図った余暇支援については感染防止の観点から積極的に行うことが出来ず、多くの利用者が楽しみや潤いを感じながら過ごすことには十分な対応ができなかった。ただし、特今年度は就労保障を軸に工賃向上を目指し新商品開発や物資販売に力を入れ、利用者も目標をもって関わる事が出来たことは更に来年につなげたい。

主たる利用者については引き続き精神障害者を中心とした就労継続支援 B 型として運営を行った。利用者の多くは障害の特性により継続した施設利用が困難なケースも多く、また本人の心身の状態や家庭基盤に課題があり包括的な支援を必要とするなど、状況や個々のニーズの多様性により施設としての専門性の向上はもちろん医療を中心とした他機関との連携強化、目的や課題別による班編成等、体制を整え支援度の高いケースに対しても随時対応の強化を図った。必要に応じて臨機応変にモニタリングを行い、それぞれの思いやケースに柔軟、且つ適切に支援することで利用者一人一人が心身ともに安定し、生きがいや目標を持って通所に繋がっている。

今後も関係機関と協力する中、利用者一人一人の個別支援を強化し、日中支援がより良いものとなるようまた希望者には就労を目標に更なる体制強化と安定した施設運営を図りたい。

1) 施設財政

今年度においては利用者の通所率が昨年と比較すると向上し、その結果、支援費収入が増収となった。事業活動収入においては今年度同様、引き続き常時 120%以上 125%以下の出勤率を目指し更なる増収と安定を図りたい。支援費収入においては 43,046,429 円(昨年 40,845,322 円)を得ることが出来、昨年と比較すると 2,201,107 円が増収となった。

結果的には2,782,123円(昨年2,373,422円)の繰越金の確保が出来たが、近年支援費収入は増収しているものの繰越については減収傾向となっている。要因としては利用率が当初の目標に達せず、また支援員を加配したことによる人件費支出が慢性的に影響している。次年度においても利用者増を目指し、必要性に応じた環境整備を行う中、同時に財源確保のため日頃より様々な対策を行いたい。

今年度の人件費支出については昨年度と比較し1,732,011円(昨年4,252,978円/職員1名加配)の増となった。主な理由は定期昇給分であり今後現行体制で支援を行う場合、今年度同様の支出は毎年加算される見込みである。利用者支援や作業内容の向上を目指すため、職員の増員は必要であるが今後は現行体制で活動を行う。

会計上においては全体収入の73.6%(昨年74.8%、一昨年64.2%)を人件費が占めることとなり経営上適正な状況とは言えない。今後更に出勤率を上げ収入を増やし、将来的には定員増を行い更なる収入増を目指す必要性について検討しなければならない。全体の比率として人件費は65%前後を目標に適正な経営上の範囲に抑えたい。事業費については2,395,850円(昨年2,611,443円)となり大幅な増減はない。事業費においては概ね次年度以降も今年度同様の支出となることが予想される。また事務費においては今年度6,195,923円(昨年5,182,960円)と増額になっている。引き続き必要経費を確保するとともに節約を第一に必要に応じ授産機器の整備、及び施設内の環境整備を行っていきたい。

来年度においても利用者の工賃向上や幅広いニーズに応じるため更なる事業展開(自主製品開拓等)をめざしたい。今後も利用者に対する専門的な支援内容を更に向上させ、利用契約者数を常時40名以上、月平均利用率23名~25名を目指し地域の限られた資源である精神障害者施設として積極的な受け入れをはかり、同時に運営の安定を図りたい。

科目	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
人件費支出	23,536,801円	27,644,407円	31,897,385円	33,629,396円
事務費支出	4,738,637円	5,085,634円	5,182,960円	6,195,023円
事業費支出	2,670,390円	2,578,675円	2,611,443円	2,395,850円
支払利息支出	0円	0円	0円	0円
その他の支出	374,286円	410,143円	578,295円	688,397円
事業活動収入計	41,168,613円	43,016,522円	42,643,505円	45,690,789円
事業活動資金収支差額	9,848,499円	7,297,663円	2,373,422円	2,782,123円

2) 事業所整備

今年度はゆとりあの **WEBSITE** を開設し広く周知に努めた。また **SNS** の発信やチラシ、その他オリジナル菓子製造のパッケージのリニューアル等外部コンサルタントの指導も積極的に入れ抜本的な改革を行った。その結果新商品の開発や新事業として園芸等活動の幅も広がり利用者の大きな励みとなっている。今後、敷地内において経営状況の安定を第一に引き続き利用者が安心安全の中、様々な可能性に挑戦すべく必要に応じた環境整備を行いたい。については新年度、一部作業棟の改装を行い菓子製造の作業室及び店舗、本格的に園芸が行える環境を新たに整備したい。

3) 利用状況

今年度も利用希望者の受け入れを随時行ってきた。今年度は 15 名の見学者があり、10 名の方が実習され 9 名が入所となった。令和 3 年 3 月末時点で契約者 45 名（男性 25 名、女性 20 名）となっている。

今年度はやまなみ工房に通所されている方が週 1~2 回併用利用したいとのことで 3 名入所された。また活動に興味を持たれ、他圏域から利用を希望され 1 名の方が入所となった。援護寮での生活訓練を行いながら日中活動先としての利用が 1 名。他の地域から転居してこられた方が 2 名となった。

在宅から 3 名の方が日中活動先として初めてサービスを利用されることもあり、相談支援事業所と連携し病状や生活リズムの安定を図りながら地域の中での生活を継続していけるよう支援や受入を行う事が出来た。

利用方法も様々になり、今年度も入所前に支援機関と個別調整会議を行い本人の体調に合わせた通所時間や回数からスタート出来るよう、訓練内容や送迎も個別に対応し拡大するなどして調整を行い安心して通所出来るよう環境を作ってきた。また、不調時は連絡を入れ通院や頓服の促しを行ったり、個別の通所日が祝日などの時は振替通所を提案し定期的な通所を維持することにより、通所率アップに繋げる事が出来た。

個別支援計画書を基に定期的に面談を行い、生活面や体調面の話を伺ってきた。また集団で活動することから対人面や就労などについても本人の想いを聞き計画書に反映させた。精神面が不穏時は支援機関に発信するなど、早めの対応を行い継続した通所に繋がるよう支援を行ってきた。長期間休みの方については、毎月訪問し直接ゆとりあカレンダーを渡したり、日々の様子を傾聴し支援を行ってきた。

令和2年度月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
契約者数	39	38	38	41	41	40	42	43	43	44	44	45
開所日数	21	19	23	22	17	21	23	20	21	18	19	23
利用実数	409	352	455	437	346	429	493	462	497	427	447	560
一日平均	19.5	18.5	19.8	19.8	20.4	20.4	21.4	23.1	23.7	23.8	23.6	24.4

図1) 一日平均(人)

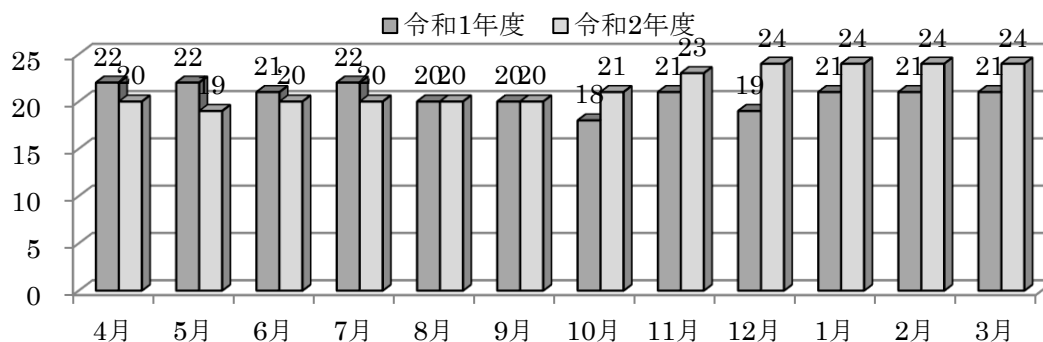


図1) コロナ予防のため休まれる方が多く、9月頃まで影響が続いた。10月から徐々に通所再開されるようになってきた。利用頻度は本人が医療と相談し病状や体調面を考慮した上で決めておられるため、生活リズムや体調の安定を優先した利用となっている。そのため週1回の方から週5回の方まで様々である。

図2) グループ別契約者数(人)

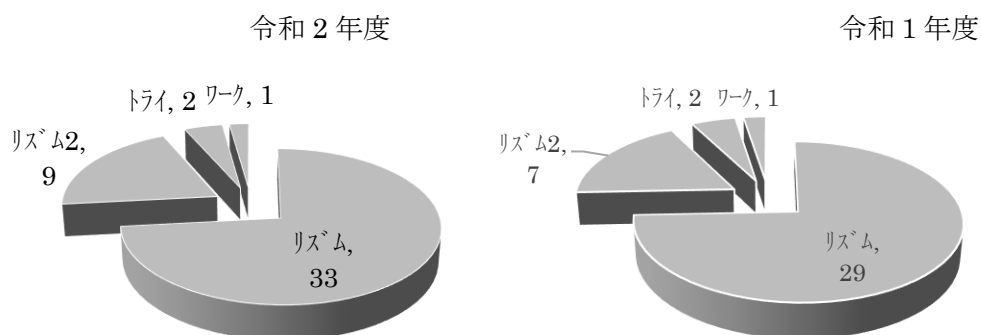


図2) では今年度も入所者全員がリズムグループからであった。リズムからリズム2へステップアップされた方が3名であった。

図3) 年代別男女 (人)

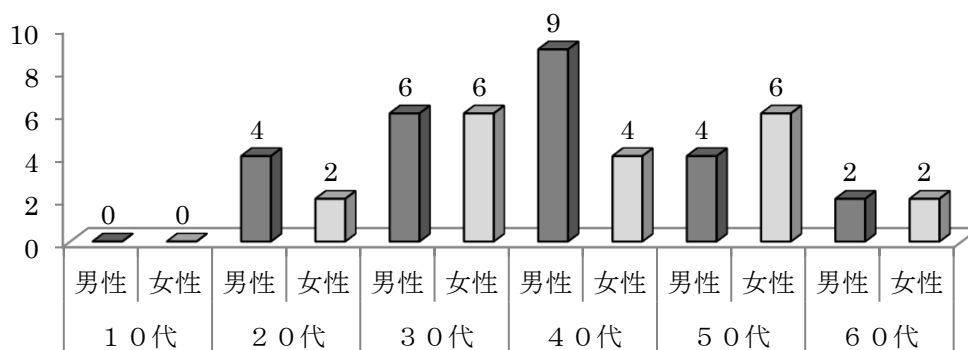


図3) では年齢幅は21歳～69歳で平均年齢は44歳となった。

図4) 地域別利用者数 (人)

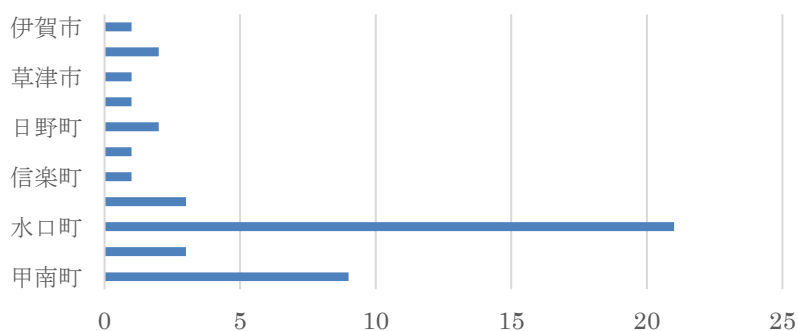


図4) では水口にグループホームが4カ所あることや援護寮(生活訓練施設2年間)退所後そのまま水口に住む方が多いため。

図5) 住環境 (人)

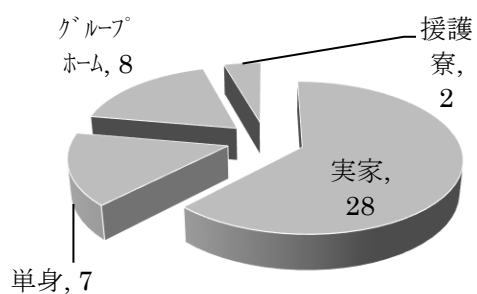


図6) 送迎利用者 (人)

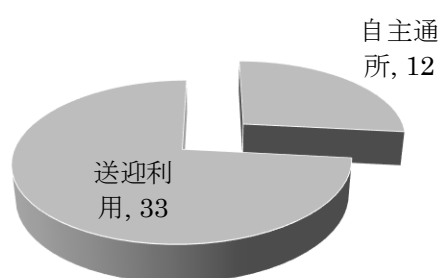


図5) では今年度の入所者はグループホーム2名、実家6名、援護寮1名であった。

図6) では全体で75%の方が利用され昨年と比べ増加している。グループ別ではリズムグループが25名、リズム2が5名、トライグループが2名となっている。

入退所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	0	0	2	1	1	0	2	2	0	1	0	1
退所	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0

図 7) 入所前状況 (人)

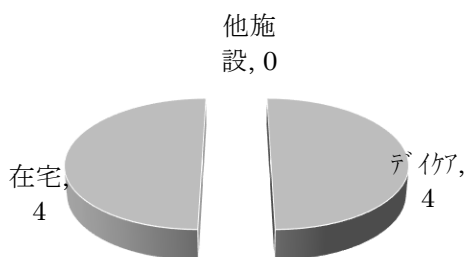


図 8) 障害程度区分 (人)

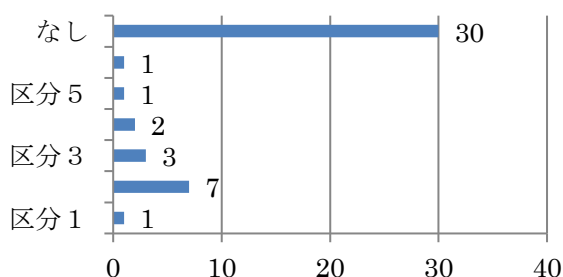


図 7) では今年度は生活リズムや体調を整えること、日中活動のため、を目的とする方が全員であった。

図 8) では就労継続支援 B 型事業所のみの利用で申請されている場合、区分判定はない。グループホームや宿泊型自立訓練事業所、訪問看護など生活面のサービスを利用する場合は区分が出る。

図 9) 見学者紹介機関 (人)

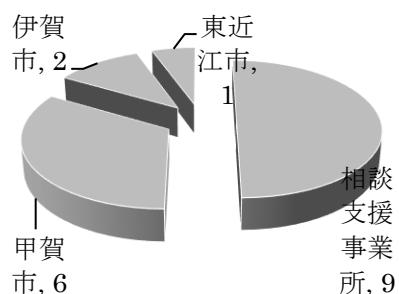


図 10) 診断名別状況 (人)

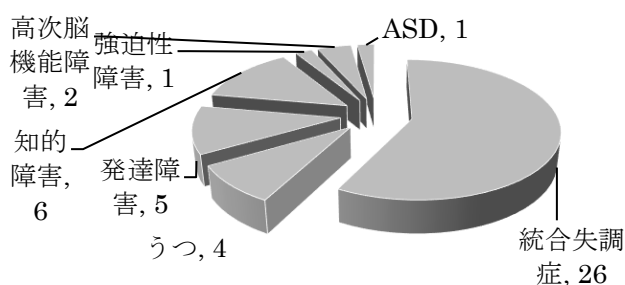


図 9) では見学者 18 名中 10 名が実習を行い、8 名が入所へとつながった。

図 10) では障害が重複されている方が 12 名、診断はついていないが重複されている方と同じ対応が必要な方もおられ、接し方や面談の仕方が重要となっている。今後も病院やケアマネ、他の支援機関と連携を密に行い病状の安定を図っていくことが重要である。

4) 生産活動

今年度の生産活動収入額は 6,757,002 円となり、昨年度収入額と比べ 205 万円の増収となった。菓子と箱折り作業については目標収入達成に至らなかったが、他の項目については大方達成に至っている。収入において増収となり目立つのは物資販売である。販売先へのゆとりあの活動周知や菓子カタログの刷新に今まで以上に力を入れたことにより地域の方々への理解がより一層深まり増収に繋がった。このことにより今年度はゆとりあに在籍しておられる方全員に冬季賞与を支給することが出来、利用者の方々の作業への意欲向上や通所率アップにも繋がり成果を上げることが出来た。

また年度途中には内職作業の見直しを行い、工賃支払いに見合った作業の受注を念頭に置き新規内職作業先（株式会社 開木産業）との契約を結ぶこととなった。古紙回収も少しずつ回収量が増えていたが、古紙単価が軒並み値下がり（段ボール 3 円/kg 雑誌 1 円/kg 新聞 2 円/kg）減収となった。

他の菓子販売店や菓子製造を行っている事業所の見学や菓子の研究に力を入れ、新商品の開発や工程の見直しにより生産性や売り上げアップにつながるよう取り組んだ。菓子ではリアル忍者館での手裏剣ベイク、鹿深いちご園での手裏剣クッキー、物資販売でのマールベイクなど新しい商品の販売が加わった。観光客への注目を集め、ゆとりあの菓子の代表する一品となるよう定着化に力を注がねばならない。菓子製造における利用者の関りについては工程の細分化や利用者の方々の得意な事・ストレングスを活かすことで関りを増やし遣り甲斐に繋げていきたい。

精神障がい者は疾患と障がいの両面を持っておられる。今後も作業療法の要素と体調面の維持を組み合わせながら継続した病状の安定が図れるよう、生産活動の向上に努めていかなければならない。

また、生産性のみならず地域の方々にはゆとりあの活動をより深く知って頂く為にも地域への発信に力を注がねばならない。

	H29 年度実績	H30 年度実績	R1 年度実績	R2 年度実績	R3 年度計画
工賃支払総額	3,167,962	3,301,695	2,968,969	3,445,749	4,200,000
工賃支払対象延べ人数	373	396	397	484	500
平均工賃月額	8,493	8,338	7,479	7,119	8,400

図 11) 項目別収入到達額 (単位：万円)

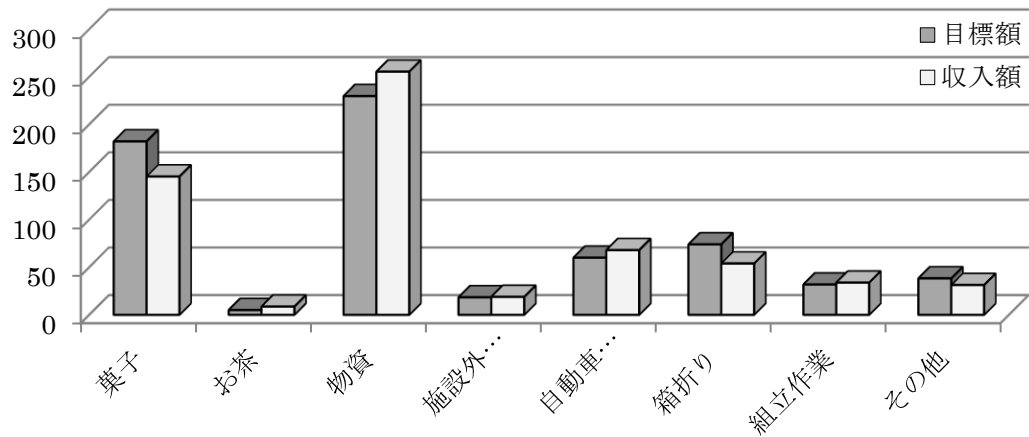


図 12) 項目別利益表

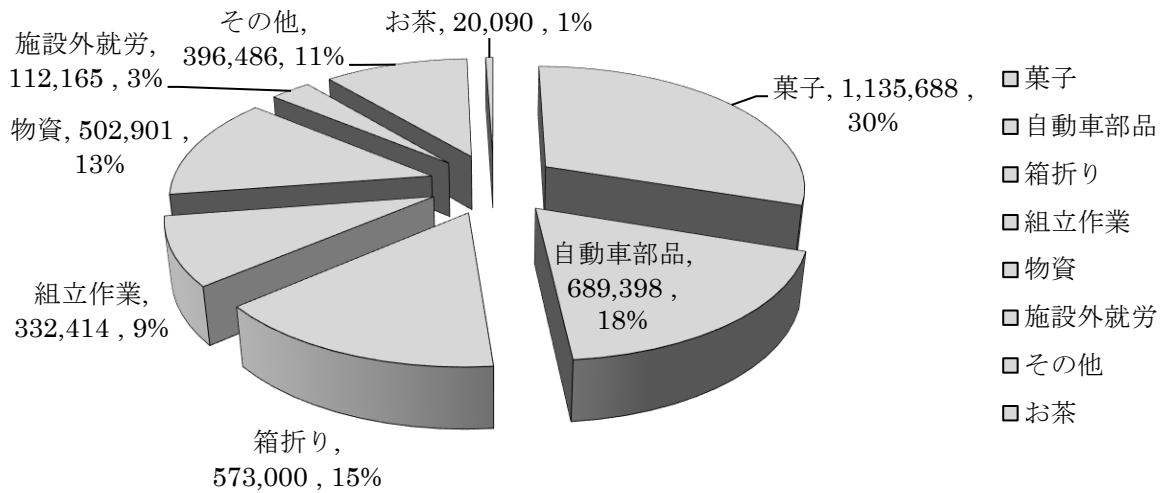


図 13) グループ別月平均工賃額 (単位：円)

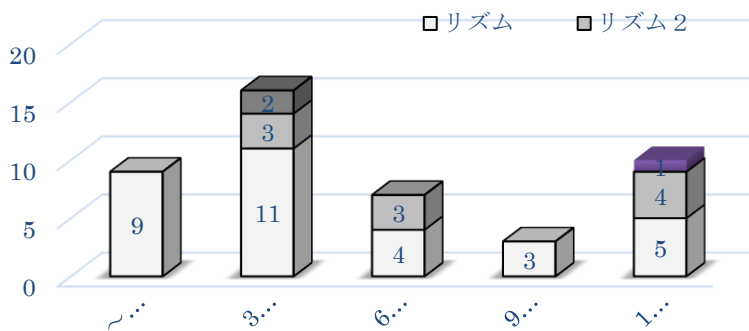


図 13) 利用日数では在籍のみ 2 名、体調不良で休み中 2 名、週一 5 名、週二 7 名、週三 7

名、週四7名、週五14名となっている。同じグループでも支払い額に差があるのは、本人の意見や病状、治療方針などを基に関係機関と検討して、利用日数や時間が個々に設定されているため。

令和2年度 利用者工賃規定

作業名	時 給		<ul style="list-style-type: none"> ・支給日は末締め翌月10日払い。 ・賞与については翌年3月に生産活動に剰余金が生じた場合に支給。 ・給食代は1食250円×回数となり工賃から引きます。 ・柚川出向作業では手当として一回当たり50円支給します
軽作業	リズム	150円	
軽作業	リズム2	170円	
軽作業	トライ・ワーク	180円	
菓子製造		320円	
メンテ	1回当たり	2,100円÷人数	
その他	行事やミーティングなど	100円	

5) 社会参加・地域交流事業

今年度も継続して施設外就労の清掃作業、受注先への出向作業や古紙回収の活動を通して社会参加への意識付けを行った。今年度力を入れてきたことは、利用者の方々と共に物資仕分けや配達に取り組んだ。甲賀圏域を中心に各関係機関や企業などに物資販売の広告を配布し取り組みの趣旨を利用者の方々と共に伝えることが出来た。このことにより地域の皆様方にゆとりあ取り組みや精神疾患を持っておられる方々の理解を深められる機会となった。

古紙回収ではユニフォームを作成したことで地域の皆様より声を掛けていただく機会が増え、日常あまり関りを持つとされることが多いが積極的に挨拶をされることにもつながり行動にも変化がみられた。

四季折々の場所へ出かけて季節感を味わうことや食事や公共のマナーを体験し生活意欲につながるよう行事や余暇支援を行っていたがコロナ禍のため実行できなかった。だが、お花見、ハロウィン、バレンタインなど季節の行事は密にならないようソーシャルディスタンスを保ちながら利用者の方々の気持ちに寄り添いながら行った。同時に土曜レクではお楽しみランチやネイルサロンを取り入れることで利用者の方々の楽しみを維持しつつ参加する喜びを盛り上げることに努めた。

6) 関係機関との連携

病気や障害を併せ持った精神疾患を抱かれる利用者の方々を受け入れるため、病院や支援センターと連携しケースの情報共有を行った。利用者の方々の年齢層も上がってきており、親亡き後の生活課題を考えていかなければならない。制度の整備が進んでいるにもかかわらず、最近でも緊急時には住み慣れた地域での生活が送れず任意入院を余儀なくされている。利用者の方々の日常生活が制限されず、利用者の方々が不利益を被らないよう各関係機関と連携をとりながら家庭状況をより一層把握していかなければならない。

今年度は新入所者 6 名となった。個々に症状が異なり、支援を受けながら地域で生活が送れるよう通所日数については主治医と相談を並行しながら提案を行ってきた。精神症状が重い方が多く、特に幻聴症状を訴えてこられ週 1 日の通所開始の方が多くみられた。

グループホームや生活訓練施設入所者の方も多く、ゆとりあの様子、服薬状況を共有し連携を図ることで精神症状が深刻化するまでに医療に繋げる事にも努めてきた。また他科受診をする方も増え家庭での様子や飲み忘れがないか等訪問看護とも連携を図る機会も増えてきているのが現状である。

就労したい利用者の方々にはケース会議を踏まえ就労継続支援 A 型事業所への同行や説明を行い、個々のステップアップへの不安軽減に努めてきた。

7) 職員状況

現在の職員数は管理者（やまなみ工房と兼務）1 名、サービス管理責任者 1 名、事務 1 名、生活支援員（1 名は調理員兼務）3 名、職業指導員 3 名の 9 名体制となった。職員の技能を活かし、心身のリフレッシュを目的とするヨガ教室や生活技能向上のための手芸教室を継続して行うことが出来た。今年度は新しく園芸に取り組んだ。花木を育てることで成長を喜び、季節を感じる事が出来た。また、ゆとりあのお菓子製造ではクッキー・マドレーヌが代表商品となっていたが、新商品開発を行い、手裏剣ベイク・クッキー、マーブルベイクといった商品も誕生した。その背景には他の菓子販売店や製造施設の見学や生産性の向上や利用者の方々との関りを学ぶ機会を多く持つことができたことが大きな要因である。今後はゆとりあのお菓子が人気商品となるよう販路拡大、販売方法やパッケージなどに力を入れて、ゆとりあのお菓子商品の定着化を図りながら利用者の方々の工賃アップにより一層力を入れていきたい。2 月 16 日にはやまなみ工房合同で虐待研修に参加した。利用者の方々が安心、安全にサービスが受けられるよう今一度、スタッフ全員が利用者の方々との関りを振り返る良い機会となる。虐待となる最初の入り

口、職員間の連携不足や相談出来ない環境が一つの要因であるため施設内外で虐待が起こらないよう施設全体で要因解決に努めていきたい。継続して、専門知識習得のための研修を持ち、職員ひとり一人がスキルアップ出来るよう努めていきそして職員の特性が発揮できるよう役割や意識を持ちより良い施設づくりを行っていく。

8) 今後の課題と事業展開

今後も主たる利用者を精神障害者とし、知的障害者や発達障害者の受け入れも積極的に行う。また希望者が今後も増となる場合は定員を 20 名から 30 名に変更し地域ニーズに対応したい。

利用者の工賃向上を目指すとともに新たな仕事の創出と、地域の中で利用者が活躍できる場を積極的に取り入れ、就労に向けた訓練及び社会復帰に向けた様々な取組と魅力ある実践の充実向上を図り、利用者一人ひとりが「ゆとりあ」を利用することで、地域の中で日々安定した状況で豊かに健康で過ごせる事を目指したい。

引き続き併設するやまなみ工房の利用者を対象に一部希望者の併用利用を行い、法人内施設が更に協力を深め一人一人の支援を充実させたい。